

# 市政ニュース

豊岡市の人口減少を緩和するために

## 豊岡市地方創生戦略会議開催

5月15日、第1回豊岡市地方創生戦略会議を開催しました。この会議は、本市の人口減少を緩和するとともに、人口年齢構成を改善することを目的とし、産業、観光、農業、子育て、教育、地域、学識経験者などの委員17人で構成しています。



▲豊岡市地方創生戦略会議

座長の中貝市長は「豊岡で暮らす価値や魅力が何かを議論しながら戦略をまとめていきたい」とあいさつしました。人口問題の専門家である神戸市外国語大学准教授の中嶋圭介さんは「将来世代にツケを回さないためにも、選択と集中



▲神戸市外国語大学准教授 中嶋圭介さん

により、有効な取組みを迅速に行うことが大切」と説明しました。

自由討議では「豊岡の暮らしやすさ、暮らしにくさについて、移住者から意見を聞いてはどうか」「コミュニティをしっかりとすることが子育てに良い」「小中学生に対するグローバルコミュニケーション教育が大切」「豊岡の産業と雇用とを結びつける経済分析が必要」などの意見が交わされました。

今後、10月をめどに、2060年に向けた市の人口ビジョンと、当面する5カ年の地方創生総合戦略を策定します。

## 無農薬栽培の技術確立へ

### コウノトリ育む農法に市内16農家参加

本市が、みのる産業(株)本社・岡山県赤磐市)に、委託し推進しているポット成苗の無農薬栽培に、市内の16農家が参加しました。

農家は、専用の田植機を使用し、田植えと同時に米ぬか散布を行い、また乗用型水田除草機を使用した少労力・高効率な無農薬栽培にチャレンジしています。

今後3年間、収穫量、食味等の分析と併せ、実作業の改

善点等を調査し、無農薬農法の拡大に向けた技術の確立を目指します。



▲無農薬栽培にチャレンジする農家

## コミュニケーション教育推進事業

### 平田オリザ小・中学校演劇授業実施

5月12日から、モデル校の5校(豊岡・弘道・城崎・三方小学校、城崎中学校)で、

市の芸術文化参与の平田オリザさんによる演劇授業を行いました。

この授業は、対等な関係の中で、自分を主張し他人を理解できる、基礎的なコミュニケーション能力を育成することを目的としています。

児童らは、複数の班に分かれ、与えられた脚本に、自由な発想でせりふを加え、最後に演劇を披露しました。



▲豊岡小学校の授業風景

## 主な市政の動き

### 5月

- 11日・JFAこころのプロジェクト「夢の教室」(13日、18日、20日、6月8日、10日)
- 12日・コミュニケーション教育推進事業(20・26・29日・6月1日)
- 13日・豊岡稽古堂塾第2期開講式
- 15日・市芸術文化参与平田オリザさんに委嘱状交付
- 15日・市地方創生戦略会議
- 15日・市歴史の建築物保存活用検討委員会
- 18日・市営企業審議会
- 19日・竹貫地場ソーラー発電安全祈願祭
- 21日・「国連生物多様性の日シンポジウム」市長講演(韓国昌原市)
- 23日・北但大震災90年メモリアル事業
- 27日・「チャレンジデー2015」参加
- 28日・市公共施設マネジメント基本方針策定
- 29日・議会開会(6月30日)
- 30日・大雨・洪水防災訓練
- 6月
- 1日・トライやる・ウィーク(6月)
- 4日・都市計画審議会
- 9日・第11回水害サミット(東京都)

## 職場体験などを通して地域に学ぶ

### 中学2年生「トライやる・ウィーク」実施

中学2年生が、学校を離れて、地域で活動する体験学習「トライやる・ウィーク」が、6月1日から6日まで、市内全域で行われました。

今年、市内の770人の中学生が、興味や関心を持った272の事業所で活動しました。

公立豊岡病院では、中学生が「トライやる議員」になり、若手職員が答弁する模擬臨時議会が開催されました。中学生は「ドクターヘリに乗る看護師にはどうしたらなるか」「ドクターカーと救急車の違い」「医師不足の実態について」などを質問しました。



▲公立豊岡病院の「トライやる臨時議会」

## 災害の記憶を風化させないために 北但大震災90年メモリアル事業「後世に伝えること」実施

5月23日、甚大な被害をもたらした大正14年5月の北但大震災から90年を迎え、災害の記憶を風化させることのないよう、また過去の災害経験を防災、減災対策に生か



▲戯曲「Bridge」の制作にかけた思いを語る西 史夏さん

すことを目的に、じばさん「AJIMA」で、北但大震災90年メモリアル事業「後世に伝えること」を開催しました。

当日は、出石在住の中村英夫さんの「過去最大の惨害」北但大震災」と題した講演や、北但大震災を題材にし、日本劇作家大会2014豊岡大会で、このとり短編戯曲賞に輝いた戯曲「Bridge（ブリッジ）」を女優の木野 花さんが朗読しました。

戯曲の作者の西 史夏さんは「私たちは、震災から90年後の今を生きている。この戯

曲が、これから先の出来事に役に立つ言葉になればうれし」と制作にかけた思いを語りました。

また、震災写真展や災害対策車両の展示のほか、地震体験ができる起震車も設置されました。



▲起震車による地震体験

## 中貝市長の徒然日記 ⑨

### ポンスニの旅

5月下旬、韓国の慶尚南道ラムサール財団のお招きで「国際生物多様性の日シンポジウム」に出席し、豊岡の取組みを話してきました。きっかけは、コウノトリです。

出石の巣塔から巣立ったコウノトリが、昨年3月、慶尚南道金海市内のファポチョン湿地で発見されました。現地でポンスニと名付けられたこの鳥は、その湿地と市内ポソファ村の有機農業の水田に長く滞在しました。

現地の人々は喜び、人工巣塔が建てられ、湿地内の散策路は「ポンスニの道」と名付けられ、日韓をコウノトリがつなぐというテレビ番組が作られ、豊岡への関心と共感が一気に高まりました。

実は、ポソファ村は、故ノ・ムヒョン元大統領の故郷です。彼は大統領を辞めた後、故郷に帰り、ゴミだらけだった湿地の再生活動と有機農業の先頭に立ちました。その湿地と水田が、ポンスニを惹きつけ

支えたのです。

2008年夏、ノ・ムヒョンさんの意向がほくたちに内々伝わってきました。「豊岡に行きたい」。

残念ながら、彼の死によって実現はしませんでした。

今回、当時の秘書官2人に会いました。「環境に優しい農業をやりながら農家がうるおい、村が活性化しているお手本を探せ」と大統領に言われ、見つけたのが豊岡でした。お前たちが先遣隊として行け、とも言われました。「ポンスニは、大統領が呼び寄せたのだと思います」

今でも年間80万人以上が訪れるという元大統領のお墓に、敬意と感謝の気持ちを含めて、献花をしてみました。

この夏、慶尚南道の子どもたちが豊岡を訪問する予定です。韓国の民放MBCはコウノトリの番組を制作中です。

日韓で、新たな交流が広がっています。 たった1羽のコウノトリがもたらしたものの。その大きさを実感しながら帰国の途につきました。